

聞き、「中海・宍道湖21世紀プロジェクト」を立ち上げた。水と共生していたはずの地域が、水に背を向けてきた現状を、正面から見据えようというものだ。

中海・宍道湖は日本を代表する汽水湖。富栄養化が進み、全国70%の生産高を誇った赤貝は全滅。名産のしじみ・しらうお・あまさぎの生息にも異変が起きている。水を力づくで浄化するのはなく、湖底に堆積している汚泥の中の窒素、リンなどを珪藻類、動物性プランクトンの発生を促すことで資源化、生命の高連鎖をつくりだそうという構想だ。

太陽と風のエネルギーを有効に活用し、表流水と湖底水の流れを循環させている。



上下水道管理コストの大幅削減を実現する『やくも水神』

好評のマンホールポンプ管理システム



あらゆる業界からの新規需要も多い『門番』

「耕水機」「動水車」の実用化を目指している。すでに岡山県の倉敷市で実用試験が行われており、中海・宍道湖でも早急に体制を整えた。北東アジア国際プロジェクトとして関係者の組織化ができればそれが対岸諸国との友好関係はもとより、この地に起きている困難な社会問題の解決にもつながると確信している。

事業のイメージを確立、具体的な実行プランをつくるべく94年「人間自然科学研究所」を設立、昨年財団法人化し、実績を紹介すると、治山治水の偉人を発掘、書籍の発行、銅像の建立・シンポジウムなどを中心とした「一村一志運動」。鳥取県につくられた日本一の中国庭園「燕趙園」への03年10月孔

子、孟子像建立（孟子像は日本で初めて）。この銅像の制作は日中国交正常化30周年を記念して、毛沢東・蒋介石両軍の国共合作で有名な日中戦争激戦地、台児荘記念館で心の昇華を祈願、郷土の治水の偉人周藤彌兵衛、清原太兵衛、両銅像と共にこの地で造った。また、今を生きるアジア・日本・島根県人の一人として正面から取り組む96年11月、中海干拓中止、跡地活用実行プランを提案。02年1月、日韓両国で激論になっている日本海・東海、称呼問題、竹島（独島）領有権問題にも、日本海（東海）の名称を「中海」として発足した。端的に言えば、これまで活動の柱は小松電機だったが、

入れ替えを提案。また99年『太陽の国IZUMO』で発表した朝鮮戦争を人類最後の総力戦にすべく、民族衣裳をまとった戦争関係国の女性と地球をモチーフにした『人類恒久平和祈願像の建立』を提案。切手・シールの発行活動もすでに動き出している。また中国山東省の一流ホテルを手始めに北京オリンピックを目指して日中英訳『論語』を置くことを計画、すでに省政府への申し入れを終えている。中国、韓国での友好・昇華事業や、「健康・環境・平和」祈願施設の建設など、構想もたくさん具現化の方向に向かっている。一連のこれらの活動が評価され、03年11月孫子の故郷中国山東省東營市から『戦わずして初期の目的を達成する平和の知恵者・孫子』の銅像をいただいた。

持続可能な社会へのパスポート 一隅を守り千里を照らす

「だんだん哲学的になら生きたが、小松社長のいわれる『中庸』の経営とはどんなものなのでしょう。」

「生命は有限。命は無敵」と解釈して、中心から大きく外れず自立復元、すなわち「和道」。一病息災から覚醒（智慧）と蘇生（生命）の循環が起る場で幸せを感じられる人の輪が広がることになる。経営とはこのことの実践。『経』は道徳の追求。『管』は行の場所。具体的には一つの「目的」と三つ以上の「目標」が必要。人類究極の目的「天寿をまとうべき、人々が楽しく生きられる持続可能な社会を築くメンバーの一員と自覚できること」だ。混迷期の指導者は空間と現在・未来の時間の中に矛盾のないイメージ、ストーリーを描き、分かりやすく示さなければ、人々は今何をなすべきか見えにくい。

「世界は進むだけ進んでその間、幾度も闘争が繰り返され、最後に闘争に疲れるときがくるだろう。その時、世界人類の平和を求めて、世界の盟主をあげねばならぬ時が来るに違いない。その世界の盟主は武力や金力ではなく、あらゆる国の歴史を超越したもつとも古く、かつ、尊い土地柄でなければならぬ。世界の文化はアジアに始まって、アジアに帰り、それはアジアの高峰、日本に立ち戻らなければならぬ。われらは神に感謝する。天がわれら人類に日本という国を創っておいしてくれたことを。」

研究所 創造機関に

原材料、エネルギー資源などのほとんどを外国に依存している。平和でなかったら日本はどうなるのか、自明だ。もう一つ、平和は戦争の悲惨さでもなくわが国は食料、



竹島に平和祈願像の建立を

「平和の再定義」。いうまでもなくわが国は食料、

「天の時」「地の

「長時間ありがとつご



竹島に平和祈願像の建立を

鳥取燕趙園 孔子孟子像

中海(日本海・東海)

(財)人間自然科学研究所